

### 「パラリンピック期待の星」登場! at yokohama

今回は、2015年5月16日(土)に開催された「ITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会」取材しました。でもトライアスロンって何? という方もいると思うので少し説明します。

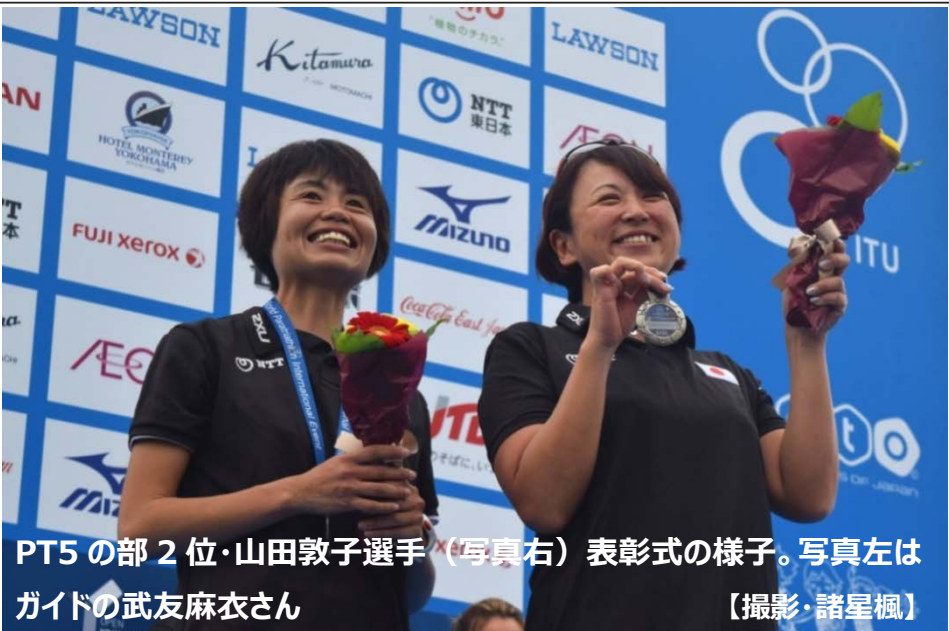
トライアスロンとは「泳ぐ」、「自転車をこぐ」、「走る」という3つの競技を続けて行います。すべてをやってゴールに着く速さで順位が決まります。

今回、6時55分スタートのパラトライアスロンから取材を開始しました。パラトライアスロンは体の不自由な方が競い合う競技です。症状の重さでグループ分けがされ、PT1からPT5まであります。PT1は両足に障害があり日常生活で車いすを利用している人たちのグループ、PT5は視覚障害のある人たちのグループです。

右下の写真は「タンデムバイク」と言い、視覚障害の人が乗ります。前に乗るのは目が見えるガイドで、後ろに乗るのが目の見えない選手です。二人で息をそろえないとうまくこげないです。今回視覚障害者の山田敦子選手にインタビューができました。「なぜパラトライアスロンを始めようと思ったのですか?」という質問に、「昔、バスケットボールをしていて、でも目が見えないとボールをゴールに入れることができないからパラトライアスロンを始めることにしました」と答えてくれました。



視覚障害の方が乗るタンデムバイク。雨で路面に水たまりができていた中のレースでした 【撮影・諸星楓】



PT5の部2位・山田敦子選手(写真右)表彰式の様子。写真左はガイドの武友麻衣さん 【撮影・諸星楓】

「怖いと感じたことはありませんか?」という質問には、「雨の日の自転車のスリップが怖い」と話していました。実際に、取材の日は雨がたくさん降っていたのにもかかわらず、山田選手はガイドの武友麻衣さんとともに雨に負けず、PT5の部で二位に入賞することができました。

【諸星楓】

### 楽しむのが一番!



私が今回のパラトライアスロン取材して感じたことは、「障害者の方でもこんなに動けるんだ」ということです。そして、一番印象的だったことは、みんな笑顔だったことです。一度は障害のことで好きなスポーツができない、または、動かすことができない、と思っても、今はこんなに笑顔で楽しそうにしている姿を見て、私はとても勇気をもらいました。

写真の佐藤圭一選手にインタビューすることができました。佐藤選手はPT4の部で左手が生まれつき不自由な障害です。レースをしていて大変なことは? という質問に、「泳ぐときに左手で水をかくことができないから大変です」と答えてくださいました。他にもバイクの時は腹筋で支えるなどと佐藤選手なりにたくさん工夫がされていました。そして佐藤選手のインタビューで心に残ったのは、「楽しめれば良い」、「辛くても他の選手も一緒だと思えば辛くないです」という言葉です。理由は、結果が悪くても楽しめれば悔いはない、ということに心をうたれたからです。そして、私もダンスをしていて最後の曲の方になってくると段々辛くなってしまふことがあるので、佐藤選手の言葉に勇気をもらいました。

【諸星楓】

### こども記者紹介

諸星 楓 藤沢市立  
明治小学校・6年生



今回こども記者に参加して、とても楽しかったです。普通の人では入れない記者だけのブースに入ったり、試合を間近で見たりと貴重な体験をさせてもらいました。普段なかなか手にすることができない、一眼レフカメラを使ってたくさん撮影できました。パシャ、パシャとシャッターを切るときは感触が良く、だんだんうまくとれるようになった時の達成感がうれしかったです。また、取材をすることで、もっとみんなにパラトライアスロンなどの障害者スポーツを知ってもらいたいと思いました。貴重な体験をありがとうございました。

### こども記者 事業報告

今回、世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会と公益財団法人横浜市体育協会の連携、そして株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により、初めての試みとして「こども記者」を実施、小学5・6年生8人が集まりました。世界のトップアスリートが集う大会で、撮影・選手インタビュー取材を行い、この「こども新聞」を作成。

一眼レフカメラの使い方、実践の中でスポーツ写真の撮り方、取材についてのアドバイスをを行った事前ワークショップ(5月6日)、荒天の中、朝早くからの大会取材(5月16日)と自宅での原稿作成そして新聞づくりの事後ワークショップ(5月24日)。こどもたちにとって、大変ながらも充実したプログラムになりました。

「スポーツには、『する』『観る』『支える』のさまざまな楽しみ方がある」と言われませんが、今回参加したこども記者のみなさんは、「伝える」という新たなスポーツとの関わり方を体験することができました。

大会スタッフやプロカメラマン、そして上田藍選手にもお声かけいただきなど、特別な経験ができた今回のプログラムでした。  
【横浜市体育協会・吉山博之】

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会  
キッズプロジェクト「こども記者」事業は、  
株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により実施されました。

#### 【協賛内容】

- ・こども記者および保護者・スタッフ1人につき1台のカメラの借用提供
- ・カメラの使い方説明とスポーツ写真撮影についてのワンポイントアドバイス、全活動日における運営協力

